

# ま ち の 話 題

## 豊岡

北但大震災復興建築再生

昭和初期の不思議な洋折衷建築物が

息を吹き返す!

「旧但馬貯蓄銀行(元町)」として建てられ、約35年間空いていた北但大震災復興建築が、4月29日、診療所やギャラリーとして再生しました。管理していた市内の不動産会社社長が、1階での精神科診療所開設を機に、2階をギャラリーにして、まちの活性化に一役買おうと考え実現しました。

ギャラリーでは、豊岡出身の美術作家KEIKO萬桂さんの個展「胡蝶のゆめ・KEIKO萬桂の世界」を開催。萬桂さんは「私の曾祖父は北但大震災で亡くなりました。その復興建築に息を吹き込むオープニングに招かれ、運命を感じます」と話していました。



▲ギャラリーで開催された展覧会と市民グループによるミニコンサートの共演

## 城崎

城崎温泉まつり

湯につかって、ほっこり

先人に感謝

4月23・24日の2日間、城崎温泉まつりが城崎温泉街で開催されました。このまつりは、720年に城崎温泉を開いた道智上人へ感謝を捧げる開山忌を由来としています。

23日は、神話の神様や隨身などに扮した約50人の古典行列が、温泉の守護神・湯山主神を祭る四所神社から出発し、各外湯を回りまわりました。露店も並び、夜には、ステージイベントがにぎやかに繰り広げられました。

また、24日は、稚児行列や温泉寺での道智上人法要が行われました。

2日間三つの外湯は無料開放。桜の花びらが大谿川を染め、まつりに彩りを添えました。



▲古典行列にカメラを向ける観光客の姿も

## 竹野

竹野認定こども園「交通安全教室」  
事故が起きないよう、  
しっかり交通ルールを学びましょう!

5月14日、竹野認定こども園(竹野町須谷)で交通安全教室が開催されました。

冒頭、先生から「他の地域で、児童が通学中に車にひかれる事故がありました。自分の命は自分で守るため、しっかり交通ルールを学びましょう」と話があり、園舎内で交通ルールのビデオを見た後、園庭で豊岡北警察署員の指導の下、横断歩道の渡り方や車の死角について学びました。また、園児が白バイのバックミラーを指差し、「これは何ですか」と聞くと、警察署員は「この鏡はバックミラーといって、後ろの車などを確認するためにあるんだよ」と優しく答えていました。



▲パトカーの助手席に座り、サイドミラーでは見えない「死角」を学ぶ園児たち

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報・交流係まで連絡ください。

## 日高

神鍋溶岩流ジオウォーク2012

### ゴツゴツした溶岩流と

### 清流の共演に心癒されて

4月29日、清滝地区公民館(日高町山宮)を発着点とした、神鍋溶岩流ジオウォーク2012(兵庫・神鍋高原ウォークイベント実行委員会主催)が開催され、約2000人の参加者が溶岩流(溶岩の作り出した独特な景観)を楽しみながら稲葉川沿いなどを散策しました。少し汗ばむ陽気の中、参加者らは、それぞれのペースで歩き、お気に入りポイントで記念撮影などを楽しみました。

家族と友人で参加した高崎香里さん(神戸市)は「道中の花が美しく、川の水がきれいでも冷たくて、気持ち良く散策できました」と疲れを感じさせない笑顔で話しました。



▲八反滝の前で休憩。この日は雪解けの影響で水量が多く、マイナスイオンでリフレッシュ!

## 出石

### 出石高等学校アンテナショップ開店 高校生パワーでまちを元気に 観光客もおもてなし

出石高等学校の文化部員らが、昨年の11月から毎月1回(主に第2土・日曜日)出石の中心街でアンテナショップを出店しています。これは、同校が取り組む地域貢献活動の一環で、書道や美術、陶芸部の作品を展示し、茶道部が抹茶をたてて観光客らをもてなします。茶菓子は、岩手県大船渡市から購入するなど、被災地支援にも一役買っています。茶道部部長の大田美祈子さん(3年)は「活動の場が広がうれしい。観光客から学ぶことも多く、いい経験になった」と話します。開店のたびに訪れる地元の方もいるなど、地域支援の温かい支援に支えられています。



▲今月初めて実施した似顔絵コーナーが好評! 次回は、6月2日(土)・3日(日)に開店予定

## 但東

高龍寺ヶ岳春色登山

### 爽やかな春の一日

### 登山と温泉でゆっくりと!!

4月30日、たんたん温泉(但東町坂野)主催の高龍寺ヶ岳春色登山が開催され、約130人が参加しました。

高龍寺ヶ岳は、老いも若きも、登山者に人気の山です。参加者は入浴券と飲み物を受け取り、登山口から入山します。山頂入口辺りからは傾斜も急で、息も切れ切れになりつつも、山頂で「登山記念プレート」を手渡されると思わず笑みがこぼれます。壮大な景色を眼下にお弁当を楽しむ家族や団体の姿も…。たんたん温泉では「登山後には温泉に入ると、疲れを取ってもらいたい」と、参加者に笑顔でねぎらいの言葉を掛けていました。



▲標高697メートルの高龍寺ヶ岳山頂はさすがにいい!